

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「つぶらなカボス」
ベトナムに本格輸出

(株)ジェイエイフーズおおいた・大分県本部)

6-7面

5月5日こどもの日に
チビリンピック2025

(広報・調査部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。



県内小学5年生へ補助教材を贈呈

秋田県産の農産物の理解促進に期待

秋田県本部



左から農林中央金庫秋田支店の芝山勝二支店長、神部秀行副知事、椎川浩県本部長

秋田県本部と農林中央金庫秋田支店は4月10日に秋田県庁を訪れ、食農教育に役立ててもらおうと、それぞれ作成した補助教材を秋田県へ贈呈しました。

秋田県本部は、2006年度から小学生向けの食農教材を作成し、県内の小学5年生に贈呈しています。今年度贈呈した下敷きには、「秋田県のお米について」として、秋田県のお米の収穫量や銘柄が紹介されています。また、「青果物マップ」として、県内各JAで取り扱っている主なオリジナル品種やブランドの青果物、伝統野菜などを紹介しています。また、「日本の食料自給率を考えよう」をテーマとしたパンフレットでは、日本の食料自給率が食生活の変化などにより低水準にあること、食料の多くを輸入に頼ることの問題点、そして秋田県産の食材を食べる意義などをSDGsと関連づけて紹介しています。

目録を受け取った神部秀行副知事は、「見やすく使いやすい教材で、子どもたちの理解も深まる」と話しました。



「つぶらなカボス」ベトナムに本格輸出

果粒入り大分県産カボス果汁飲料を拡大へ

(株)ジェイエフズおおいた・大分県本部



握手を交わす(左から)ジェイエフズおおいたの大塚修司社長、エコフルーツ輸出入のブ・ティ・ガー会長、フォスターの星美和子代表取締役

(株)ジェイエフズおおいたは、ベトナムの現地貿易会社工コフルーツ輸出入(株)と(株)フォスターとの3社で、「つぶらなカボス」ほか5種類の商品をベトナム国内における独占年間販売契約を締結し、4月9日に調印式を行いました。

ジェイエフズおおいたでは、中国、香港、台湾をはじめとする海外市場へ継続的に商品を販売しています。一層の輸出拡大に向けて、2024年9月からベトナムで試験販売を行い、好評だったことから本格的な販売が決まりました。

ベトナム輸出は年間60万本を目標としています。現地のスーパーマーケットでの販売を起点にプロモーション活動を実施し、ブランド構築を進めるとともに、他国への輸出拡大にも積極的に取り組んでいきます。



カーリング日本代表の食事をサポート

カナダで世界ミックスダブルスカーリング選手権大会

広報・調査部

©JCA



どんぶり弁当を手に笑顔の松村千秋選手(左)と谷田康真選手(右)

全農は日本代表選手の皆さんが海外遠征する際、現地の慣れない食事や環境、衛生面で苦労している実情を受け、2019年度から全農の海外ネットワークを活用し現地での食事サポートを本格的に開始しました。

全農は、4月26日から5月3日までカナダ・フレデリクトンで開催された「世界ミックスダブルスカーリング選手権大会2025」に出場したカーリング日本代表チーム(松村・谷田)の現地での食生活をサポートしました。



輸出した日本産米と和牛を使用した「おにぎり弁当」

株式会社輸出した和牛や日本産米を使った、日替わりの「おにぎり弁当」(昼食用)と「どんぶり弁当」(夕食用)を提供しました。今大会で日本代表チームは5勝4敗(グループ7位)で予選敗退となりましたが、世界の強豪国を相手に奮闘しました。全農はこれからも「ニッポンの食」を通じてカーリング競技を応援します。



来たれ JA全農学生「酪農の夢」コンクール

酪農にかける夢を熱く語る作文 9月9日まで募集

酪農部



前年度の「酪農の夢」コンクール受賞者5人

全農は、酪農の将来を担う学生・生徒の皆さんを対象とした第19回JA全農学生「酪農の夢」コンクールの作品を、9月9日まで募集しています。本コンクールは文部科学省や全国農業高等学校長協会などから後援をいただいています。

コンクールは、学生・生徒が酪農にかける大きな夢を熱く作文で語ることで、これからの日本の酪農に新たな息吹を吹き込み、活力をもたらしことを目的に開催しています。

テーマは酪農に限らず牛乳・乳製品なども含めて幅広く設定しています。応募資格は大学・大学院・短期大学・農業大学校・各種

専門学校・高等学校に在籍する学生・生徒であることで、所属学科や専攻内容は問いません。

最優秀賞、優秀賞、学校賞の受賞者は、11月21日に東京・大手町の日経ホールで開催される「第43回JA全農酪農経営体験発表会」に招待されます。応募要項など詳細は特設ページからご確認ください。

「酪農の夢」
コンクール特設ページ





羽田空港第1ターミナル バナー広告を更新

「一食入魂」「つなぐ。まるになる。」へリニューアル

広報・調査部



石川佳純さんを起用した「一食入魂」(左)と「つなぐ。まるになる。」(右)

全農は5月1日、羽田空港第1ターミナルへ掲出中のバナー広告を2025年上期デザインへ更新しました。

22年度から掲出を始めたバナー広告を、今回6度目の更新を行いました。空港を利用する幅広い世代の利用者に対して全農の社会的役割や国産農畜産物の消費拡大を訴え、ブランドの知名度向上のためPRを行っています。

「食と農を未来へつなぐ。」のブランドメッセージは、本会の認知度・好感度向上を続けるため年間を通して掲出を継続します。

リニューアル内容として、「一食入魂」は選手生活を終えた石川佳純さん(全農)が卓球に向き合ってきたのと同じように、「ニッポンの食」と真剣に向き合っていくというイメージで作成した新たなグラフィック広告です。

一方の「つなぐ。まるになる。」は、「卓球を次世代につなぐ石川佳純さん」と「食と農を未来につなぐ。」というブランドメッセージを表現した新たなグラフィック広告です。

羽田空港へお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



山形県産酒米のテレビCMを放映

3品種の認知度向上へHPに専用ページも作成

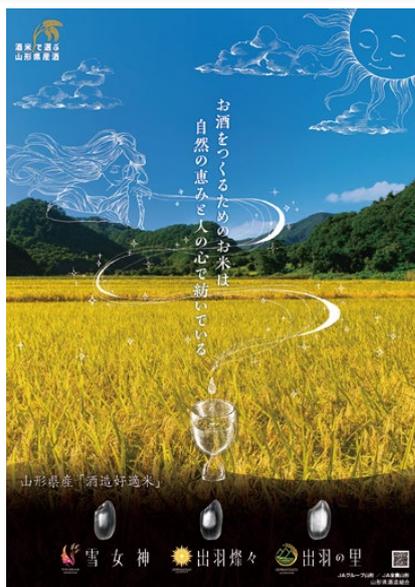
山形県本部

山形県本部は4月から山形県オリジナル酒造好適米(以下、酒米)3品種(雪女神、出羽燦々、出羽の里)の認知度向上、それに伴う日本酒の消費拡大を目的に、酒米に特化したテレビCMの放映を開始しました。

日本酒に欠かせない酒米にスポットを当て、酒米に込められた生産者の思いがおいしい日本酒に紡がれていく様子を表現しています。酒米を知ること、日本酒の奥深さや面白さを知ること、期待を待っています。

加えて、県本部のホームページ内に酒米専用のページを新たに作成し、より詳細な情報を提供します。また、新たにPRポスターを作成し、小売店や飲食店などに掲示することで、酒米の認知度向上を図ります。山形県本部では、県オリジナル酒米3品種の名前をPRすることで、酒米の認知度向上を図り、日本酒の消費拡大、さらには生産者の生産意欲の維持・向上につながるよう、取り組みを継続していきます。

酒米に特化したPRポスター



県本部酒米ページはこちら▶
[下部にCM動画あり]





食の安全・安心へ「有機の里構想」

耕畜連携で持続可能な循環型農業

青森県のJAゆうき青森は、地域農業の振興と組合員の生活安定向上を目指し、2010年4月に四つのJAが合併して誕生しました。県の東部に位置する東北町(旧東北町)、七戸町(旧天間林村)、野辺地町、六ヶ所村の3町1村で構成されています。

この地域は県内でも有数の豪雪地帯で、冬は雪に覆われ、夏は東方海上から吹き込む冷気(ヤマセ)の影響を受ける、夏季冷涼な地域です。この冷涼な気候を生かして、ナガイモ・ニンニクなどの野菜のほか、酪農・畜産産地としても発展しています。

JAでは組合員との徹底した対話に基づき、農業者の所得増大を図るため、助成事業や新たな取り組みに挑戦しています。

他産地と差別化図り小カブに付加価値

5月に収穫シーズンを迎える基幹品目の一つである小カブでは、葉つきのまま出荷しています。通常はカットして出荷する



皮が手でむけるほど柔らかい「野辺地葉つきこかぶ」

小カブの葉の部分を残すことで、他産地との差別化を図り、付加価値を高めています。また、小カブを2個単位で袋詰めできる機器を導入し、個包装での販売を拡大して、所得向上に努めています。

補助事業を生かして酪農など異常気象対策

近年の異常気象によって、耕種・酪農ともに被害を受

JAゆうき青森(青森県)



概要	2025年3月31日現在
正組合員数	2409人
准組合員数	879人
職員数	148人
販売品取扱高	167億1千万円
購買品取扱高	53億3千万円
貯金残高	370億7千万円
長期共済保有高	1323億円
主な農産物	ナガイモ、ニンニク、葉つき小カブ、トマト、水稲、畜産

けています。特に酪農事業では、夏場の猛暑の影響で乳牛の死亡や乳質の低下が発生しています。国の補助事業などを活用し、大型扇風機の導入助成を実施しているほか、2024年度は組合員の意見を参考に、新規事業としてソーカーシステム(牛舎の暑熱対策システム)などの



牛の体を直接冷やすソーカーシステム

導入助成を行いました。食の安全・安心を第一に考えた野菜作りや土づくりを基本理念として、「有機の里構想」を掲げ実践しています。JAの堆肥センターでは、畜産農家から搬入されたふん尿を活用して独自の堆肥を生産し、持続可能な循環型農業を進めています。



JAが独自に製造する堆肥



5月5日こどもの日に

チビリコピック 2025



一輪車競技



聖火点灯



開会式であいさつする安田専務



サッカー決勝戦

全農が特別協賛する第47回JA全農チビリコピック2025が5月5日のこどもの日に、横浜市の日産スタジアムなどで親子約8650人が来場し開かれました。今年で39年目の特別協賛となる今大会も石川佳純さん、高橋尚子さんら豪華ゲストをお招きしてスポーツを楽しみました。
【広報・調査部】

開会式

開会式ではJA全農の安田忠孝代表理事専務が「私たち全農は皆さんが、スポーツを楽しみ、これから健やかに成長するために、『食べる』大切さを伝えたいと考えています。参加選手の皆さん、本日は元気いっぱい頑張っていて、楽しい思い出を作ってください」とあいさつをしました。

また、聖火ランナー・ゲストが一緒になって聖火リレーをし、聖火台に聖火がともされました。

競技

日産スタジアムでは、親子マラソンやミニマラソン、マラソンリレー、50歳・100歳走、一輪車競技が行われ、子どもたちが日ごろの練習成果を競い合いました。また、5月3日から行われた「JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」は連日白熱した試合が続きました。決勝戦は柏レイソル（千葉県）とサガン鳥栖（佐賀県）が対決。延長戦でも決着付かず、PK戦で柏レイソルが勝利、10年ぶり2度目となる優勝を飾りました。

卓球

港北スポーツセンターでは、「JA全農杯チビリコピック小学生卓球選手権大会」を開催。ホープス（6年生以下）、カブ（4年生以下）、バンビ（2年生以下）の各カテゴリー男女に分かれ、熱戦を繰り広げました。また、全農所属の石川佳純さんが登場し子どもたちにデモン

全農X
「全農広報部スポーツ応援」
アカウント



日刊スポーツ
公式YouTube



サッカーキング
YouTube



TikTokでの配信

TikTokアカウント「チビリンピック」で、当日の競技の様様や参加選手のコメントなどイベントの様子を随時配信中です。



情報発信

本会X「全農広報部スポーツ応援」アカウントでは開催状況を都度更新、サッカーキングと日刊スポーツアカウントでは中村憲剛さんの解説のもと「JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」決勝戦をライブ中継しました。



親子マラソン

横浜市・日産
スタジアムなどに
親子約8650人が
来場

ゲスト一覧

アニマル浜口さん、高橋尚子さん、浜口京子さん、石川佳純さん
(全農所属)、吉田沙保里さん、中村憲剛さん(出場回数順)



表彰式で国産農畜産物をお渡し



初めて行った和牛クイズ大会



餅つきをするゲスト



石川佳純さんへの質問コーナー



優勝した柏レイソルU-12

表彰式では各種目の入賞者へJA全農の安田忠孝代表理事専務から副賞として、「黒毛和牛焼肉用」や「九州産若鶏」、北海道産「ゆめぴりか」などが贈呈されました。
また、各種目の参加者へ「ニッポンエネルギー瀬戸内広島レモン」、クリアファイルなどを渡し、子どもたちを激励しました。
全農はこれからも、子どもたちの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。

表彰式

ステージでは、今年度初めて和牛クイズ大会を実施。また、みんなで「よししょー」の掛け声とともにゲストと行った餅つき大会では大きな歓声が上ががり、大いににぎわいました。

お楽しみ広場

トレーニングを行いました。

日産スタジアム西ゲート前広場では、「全農お楽しみ広場」を開催しました。和牛肉や焼き餅のサンプリングを行ったほか、全農の商品ブランドである「ニッポンエネルギー」商品をはじめ、神奈川県産や新潟県産商品などの販売も行いました。

「大葉香る10品目のサラダ」を新発売

ニッポンエール ファミリーマートと協業で開発

全農は(株)ファミリーマートとの協業の一環として、(株)清浄野菜普及研究所と連携し、ニッポンエール「大葉香る10品目のサラダ」を共同開発しました。ファミリーマートの近畿エリア(約2600店舗)で5月27日から販売しています。【営業開発部】※店舗によって取り扱いのない場合があります。

「大葉香る10品目のサラダ」は、国産のキャベツやダイコンなど10品目の野菜を使用したミックスタイプのサラダです。商品名の由来でもある大葉は愛知県産大葉を使用しており、彩り豊かな野菜に大葉の香りが特徴的な商品です。

全農とファミリーマートは、両者の強みや特色を生かした協業を通じて、魅力的な国産農畜産物の訴求と販売拡大に取り組んでいきます。



大葉香る10品目のサラダ

Aコープが「ごっこランド」に登場

認知拡大とファンづくりへ新たなチャレンジ

子ども向け社会体験アプリ「ごっこランド」に、新ゲーム「Aコープのおかいものについていこう!」が4月16日に登場しました。【くらし支援部】

全農は、地域のくらし支援や国産農畜産物の販売拠点として地域の皆さまとのコミュニケーションを大切に、地域に愛される店づくりを目指しています。

「ごっこランド」を通じて、Aコープの仕事を知らせてもらい、子どもたちに買い物の楽しさや食への興味・関心を育ててほしい、Aコープのファンになってほしいという思いから出店が実現しました。「Aコープが大切にしているお仕事」と、買い物の楽しさを知っていただく2つのゲームを用意しました。

内容は、①スーパーの品出しという仕事を体験できる「しなだしたいけん!」②スーパーでの買い物を疑似体験できる「おかいものについていこう!」です。ゲームを通じて、一人でも多くの方にAコープのファンになってもらえるよう取り組みます。

ダウンロードはこちら



「Aコープのおかいものについていこう!」のポスター

JA全農の産地直送通販サイト



JA全農かながわ

神奈川県小田原市東部の下中地区は、知る人ぞ知る古くからのタマネギの産地です。ここで育つ「下中たまねぎ」はとろけるような食感と辛みの少なさが特徴の人気商品です。

「下中たまねぎ」のおいしさの秘密は、「土壌」と「気候」。海風に含まれるミネラルとこだわりの有機肥料が栄養豊かな土壌を形成し、下中地区特有の温暖な気候と昼夜の寒暖差が高品質なタマネギを育てています。「下中たまねぎ」のおいしさをいろんな方法でお楽しみください。



とろんと甘い! 小田原自慢の下中たまねぎ
2900円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

